

## 活動報告書

報告者氏名：柳田麻衣子 所属：県立相模原養護学校高等部 記録日：2013年 2月 6日

### 【対象児（群）の情報】

- ・ 学年  
高等部 2年生男子生徒 1名
- ・ 障害名  
広汎性発達障害
- ・ 障害と困難の内容  
一人で外出できるが行き先は限定されており、知らない場所へ行くことへの抵抗感を持っている。

### 【活動目的】

- ・ 当初のねらい  
知らない場所へ行くことに抵抗感や不安を持っている対象生徒に、初めて歩く場所でも一人で散策できる力を養いたいと考えていた。そこで、校外散策の機会に iPad を持ち歩き、マップを操作して GPS で現在位置を確かめたり目的地までのルートを調べたりすることで、知らない場所でも道に迷うことなく目的地に行くことができるという成功体験から自信や安心感を得ることを目的とした。
- ・ 実施期間  
地域マップ作りの単元の導入として 11月 28日に実施した。
- ・ 実施者  
柳田麻衣子（特別支援学校教諭）
- ・ 実施者と対象児の関係  
学級担任

### 【活動内容と対象児（群）の変化】

#### ・対象児（群）の事前の状況

対象生徒は地図と現在地を照らし合わせることが可能なものの、地図だけを頼りに知らない道を歩くことには不安がある様子が伺われていた。これまで行われた校外を歩く活動においては積極的な参加がみられず、他の生徒の後ろを歩いていることが多かった。

#### ・活動の具体的内容

iPad の「マップ」のアプリを利用した。まず学級で事前に目的地の場所を調べ、アプリの機能を利用してルート検索を行った。その後、学級の生徒7名で校外散策に行く場面で、対象生徒に iPad を持たせて道案内を任せた。安全面への配慮として、iPad で地図を見る際には立ち止まって周囲の様子に気を配ってから見るよう指導し、教員同伴の上で使用した。

#### ・対象児（群）の事後の変化

マップを見て現在地を確認しながら、先頭に立ち率先して案内することができていた。また、自発的に「こっちの道にも行ってみたい。」と提案する姿も見られ、周囲を散策することへの興味を示していた。

### 【報告者の気づきとエビデンス】

#### ・主観的気づき

GPS により現在地が常に表示されるため、地図の読み間違いや迷うことへの不安が軽減され、初めて通る道でも安心して散策で来ていたように感じられた。また、立体的な表示や指の操作で自在に動くアプリの機能が気に入った様子で、しきりにアプリに触れて操作を楽しんでいた。

#### ・エビデンス（具体的数値など）

学校周辺地域において、10:00から11:40まで散策を実施。総歩行距離は約3km程度。

#### ・その他エピソード（画像などを含めて）

今回の活動は7名の学級単位で行ったため、対象生徒以外の生徒にも地図への意識の変化が見られた。例えば地図を見て現在地と照らし合わせることが難しい生徒は、移動に合わせて現在地を示すマークが動くことで、自分たちの動きを視覚的に捉えて現在地に注目することができていた。策から戻った後も教室でアプリを開き、世界各国の道を意欲的に調べていた。

